

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	1	芸術文化活動の推進			
目的	萬鉄五郎の画業を顕彰するとともに、優れた美術作品の鑑賞機会を提供する。					
対象	市民等					
意図	先人の業績を認識するとともに、芸術文化に関心や親しみを感じる市民を増加させる。					
事業概要						
1 企画展覧会の開催						
(1) 萬鉄五郎一生命の爆發一展 4月19日～6月29日						
(2) 親子で楽しむ萬鉄五郎展 7月5日～8月23日						
(3) 絵本作家 馬場のぼる展 9月6日～11月24日						
<先人顕彰 晴山 英展 11月29日～2月1日(22日)>						
2 関連事業						
(1) ギャラリーコンサート(2回)の開催						
(2) 美術に親しむための美術講座の開催(3回)						
(3) 情報パンフ「木の間通信」の発行(年6回)						
(4) 民間が行う美術普及活動に対する支援(鉄人会の写生会)						
(5) 街かど美術館事業への支援						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	○ 事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標(上記「事業概要」に対応)		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 実開館日数	日	計画		225	322	
		実績		302	244	
② 企画展覧会の数	件	計画		3	5	
		実績		5	5	
③ 関連事業の数	件	計画		5	8	
		実績		10	9	
成果指標(上記「意図」に対応)		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 来館者	人	目標		11,000	10,000	
		実績		8,443	14,325	
② 萬鉄五郎や芸術文化に関心を持った人の割合	%	目標		75.0	75.0	
		実績		76.9	78.6	
③ 講演会、ワークショップ等の参加者	人	目標		400	330	
		実績		393	412	
成果指標の達成度	○	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
【H26成果指標の設定根拠】		
○来館者目標値は、市民の概ね10%に当たる11,000人を目標とするが、26年度は、トイレ改修工事及び展示室壁面クロスの張り替えのため臨時休館とすることから1,000人を減じたが、馬場のぼる展が予想以上の入館者となり、目標値を大幅に上回った。		
○萬鉄五郎や芸術文化に関心を持った人の割合は、過去の館内アンケート結果が75%前後であることから75%と設定したが、馬場展の好評を反映し若干上回った。		
○活動指標中「開館日数」の減は、月曜日の開館実施が見送られたこと、及び維持補修工事等を前倒ししたため臨時休館の増加による。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	県内には博物館法該当の美術館は4館であり、鑑賞機会が限定される市民等に対し身近に低廉な価格で優れた美術鑑賞の機会を提供するものであり、公立美術館として妥当な事業である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	話題性や知名度の高い展覧会を実施することにより、集客力や鑑賞者の満足度がアップする。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	県外同規模館(展示室450㎡、展示事業費1,250万円)の職員数12人(正職員6人、臨時6人)に対し、当館は6人(正職員2人、非常勤・臨時4人)であり、事業費、人件費とも削減の余地はない(当館の展示室は297㎡。県内には同規模美術館はない)。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	入館料は「特別展示に係る特別入館料の基準(平成22年3月決裁)」に基づき、重要度、人気度及び事業費の観点から評価し企画展毎に設定しており適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
費用負担の見直し余地がある		
○ 適正である		
総合評価		
○平成26年度は、萬鉄五郎関連の企画展を2事業、絵本作家として著名な馬場のぼる展、先人顕彰として晴山英展を開催したが、多様な年代の市民が関心を持てる企画内容としたことにより、入館者が増加した。		
○平成27年2月2日から3月末にかけ、美術館維持補修工事(トイレ改修、展示壁面クロス張替え)を実施したことにより、鑑賞環境が向上した。		

平成 26 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 まちづくり部 課名 萬鉄五郎記念美術館 担当係長 平澤 広 内線 42-4402
(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			15,307		15,307
財源 内訳	国・県				
	地方債		3,700		3,700
	その他		4,152		4,152
	一般財源		7,455		7,455

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部経営方針における目標
文化の香り高いまちをつくります。

事業開始の背景・経緯
住民の強い意欲と資金提供により、昭和59年5月に美術館がオープンし、以後、萬鉄五郎の画業を顕彰する展示会をはじめ、岩手ゆかりの美術家や、日本の美術史上重要な役割を果たしてきた美術家の展示会を実施してきた。

事業概要

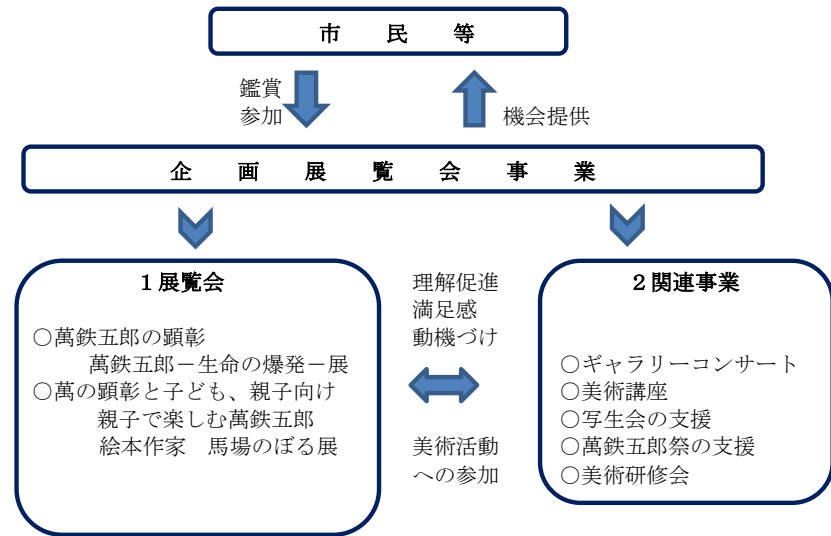
1 企画展示会の開催
 (1) 萬鉄五郎-生命の爆発一展 4月19日～6月29日
 (2) 親子で楽しむ萬鉄五郎展 7月5日～8月23日
 (3) 絵本作家 馬場のぼる展 9月6日～11月24日
 <先人顕彰 晴山 英展 11月29日～2月1日(22日)>

2 関連事業
 (1) ギャラリーコンサート(2回)の開催
 (2) 美術に親しむための美術講座の開催(3回)
 (3) 情報パンフ「木の間通信」の発行(年6回)
 (4) 民間が行う美術普及活動に対する支援(鉄人会の写生会)
 (5) 街かど美術館事業への支援

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

1 平成26年度は、美術館開館30年となることから、年度前半には萬鉄五郎特集として、2部構成により展示会を企画した。
 2 これに合わせ、平成13年4月に製作した図録「萬鉄五郎収蔵品集」の残部が20部となったことから、その後新たに収蔵した作品を増補し、同図録の改定版(増補版)を製作した。
 3 美術館トイレは男女3か所とも和式であり洋式・洗浄便座化の要望が強く、また、障害者用は、洗浄便座化とベビーシート(ベビーベッド)の設置が要望されていたことから、27年2月、3月に洋式化・洗浄化を実施。また、1階、2階の展示室クロスを塗り替え環境の向上を図った。

《事業手法の詳細》



《事業費の概要》

展示会別経費内訳

節	金額	説明	企画展示会	維持補修	次年度準備
8 報償費	72	講演会、ギャラリーコンサート講師謝礼	72		
9 旅費	121	作品借用、返却旅費	121		
11 需用費	3,715	消耗品費	330		
		印刷製本費1 ポスターチラシ等	1,534		
		印刷製本費2 図録印刷	1,836		
		印刷製本費3 記録写真			
		食糧費	15		
12 役務費	355	通信運搬費(ポスター等配送)	338		
		保険料(借用作品動産保険)	17		
13 委託料	7,368	作品借用・搬送・展示・撤収・返却業務	810		
		作品修復委託料	164		
		展示会企画展示等委託料	2,700		
		維持補修工事実施設計委託料		454	
		展示室壁面クロス張替委託料		3,240	
14 使用料賃借料	20	作品借上げ料	20		
15 工事請負費	3,456	トイレ改修工事費		3,456	
19 負担金補助金	200				200
計	15,307		7,957	7,150	200